

# 大館市農作物異常気象対策協議会

## 異常気象を警戒

市では異常気象による農作物への影響に備え、四月十一日、農作物異常気象対策協議会を設置しました。これは適正な対策技術の指導体制を確立するとともに、異常気象情報を収集・伝達し、農作物の安定生産を図ろうというものです。

### ストロップ!

#### 「巳年のけちち」

昨年の夏、東北地方を襲った冷害が当市に甚大な被害を与えたことは記憶に新しいところで

す。被害額は約十二億円にもおぼり、国の天災融資法、激甚災害法が適用されるまでに至りませんでした。その傷がまだ完治していない状態の中、今年も年頭から記録的な暖冬少雪という異常気象が続き、かんがい用水の不足や、開花が早まる

であらう果樹への霜害などが心配されています。



果樹園では霜の害を防ぐために古タイヤを燃やします。

冷害は、過去の例をみると二年連続して発生することが多く、戦後だけをとってみても昭和二十八年・二十九年、四十年・四十一年、五十五年・五十六年と三回もありました。「巳年のけちち」と

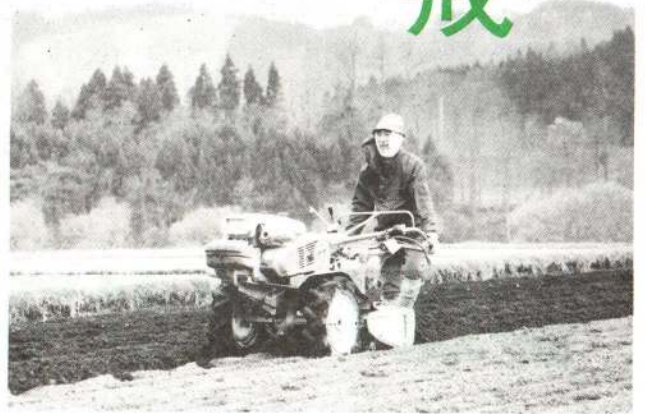
はへビ年に凶作が多いという言い伝えですが、このリンクスは一概に非科学的とは片付けられない気がします。昭和二十八年、四十年は巳年でした。そして今年も巳年。

これまでの教訓と現在の気象状況を考え合わせ、万一に備えて態勢を整えておかなければなりません。そのために設置されたのが農作物異常気象対策協議会です。

### 気象情報の

#### 収集がキメ手

春の農作業がピークに達する今の時期、最も心配されるのは「水」と「霜」です。暖冬で雪が極度に少なく、雪解けも例年に比べ一カ月ほど早かったため、かんがい用水の不足が懸念されますし、果樹は発芽、開花が早まることで、まだ朝晩に冷え込むこの時期に、低温に弱い状態で凍霜害に見舞われる可能性があります。また水稲は、育苗期間や



田植え前後に天候不順となる恐れがあり、苗管理には十分な注意が必要で

異常気象対策協議会では、作目ごとにその適正な技術指導にあたることを主眼とし、当面は気象情報の早期かつ適確な収集と迅速な伝達に力点を置いています。情報伝達は、市、農協、農業共済、農業改良普及所が中心となって、チラシの配布、広報車による巡回などで行うことになっています。

刻々と変化する気象状況に素早く対応するには、正確な情報をより多く把握することが一番です。農家の皆さん、今年はいつもの以上にアンテナを広げ、作物のために細心のご注意を!

### 市長メモ

#### 宣伝べた



No. 8

いつも言われます。「せっかく頑張っているのに真意が伝わっていない」、「大館は宣伝が下手だ」。大館だけではないかもしれませんが、だれもが思っていることでしょう。

宣伝は自己主張である。染み出る効果こそ美徳である。そんな考え方が私たちには潜在していると思います。しかし、今は戦国(情報化)時代です。宣伝こそ最大の武器といえる時節です。こんなときに「過去の美德」に安んじていたのでは完全に「落ちこぼれ」になってしまいます。

何の目的で、だれを相手にした宣伝であり広告であるのか。その辺のところも定かでないため、余計に下手だということのかもしれない。内向性が強過ぎるためなのかもしれません。けれども、だからといって落ちこぼれにはなれません。思い切った外へ向かって効果的な宣伝をしていきましょう。

名と假名